

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 次世代 IoT・AI を用いた遠隔医療の法政策デザイン

2. 個人研究者名

島田 裕平（東京大学大学院法学政治学研究科 大学院生）

3. 事後評価結果

本研究課題では、遠隔医療に関する課題について調査を行い、社会実装にあたっての課題や管理体制に対する調査から、都市と地方では地理的な格差が広がっていること、遠隔医療を推進するための基盤技術であるデジタルデバイスにおいても病院の規模や医療の種類により導入の在り方が異なっていることを実証的なデータから検証した。また、法制度の分析からは、医師の責任範囲に関する検討を行うほか、市民に便益のあるような行政体制を検討するためにアンケート調査等を実施して関係者の意識の分析等も行った。遠隔医療に関して、量的、質的なデータを集めながら多角的な観点から調査を行われており、研究目的はおおむね達成されている。

ACT-X の中では社会科学的な観点からの研究という点では異色ではあったが、だからこそ領域の研究者同士での相互の学びはよい影響をもたらした。医療、法、技術のすべてにわたる専門家は、ますますその重要性が増してくるため、今回得られた個別の知見をもとに、今後、より包括的な医療制度とデジタルという観点からの研究が推進されることを期待する。